

NO. 2 事業名 林道事業 [森林管理道開設事業 (国補)]

箇所・地区名 たけもり  
竹森線

平成22年度公共事業等事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) 国補・県単

事業名	林道事業[森林管理道開設事業(国補)]		事業箇所	甲州市塩山平沢・上萩原		地区名	竹森線		事業主体	山梨県	
(1) 事業着手年度	S61		(2) 事業期間	S61~H17		(3) 完了後経過年数	5年		(4) 総事業費	1,980百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等					
<p>本路線は甲州市北部に位置し、森林基幹道鈴庫山線を起点として国道411号線の柳沢峠に至る全延長約9km、利用区域面積365haの森林管理道である。</p> <p>利用区域の森林は県有林で、主にカラマツ、ヒノキなどが植林され、人工林率が61%と高く、その内の約8割は間伐等の保育を必要とする林分であり、路網を整備することにより、効率的な森林整備が可能となり、健全な森林環境の形成や地域林業の振興が期待される。</p>						<p>省 略</p>					
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果											
<p>(事前評価未実施)</p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標 森林整備の効率化</p> <p><input type="checkbox"/> 副次目標 なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果</p> <p>① 林業生産力の向上 ② 防火帯の確保 ③ リサイクルの推進</p>											
(7) 整備内容(目標達成の方法)											
森林管理道の開設 実施延長9,060m、幅員4.0m											

2. 評価シート（1）

<p>(1) 事業貢献度 <span style="float: right;">〈 (良) ・ 不良 〉</span></p> <p>(理由)          県有林の整備を計画的・効率的に行なう条件が整い、間伐などの施業が実施され、健全な森林が形成されている。          また、間伐材を使用するなど資源が有効利用されている。</p> <p>①主要目標：森林整備の効率化</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伐採対象人工林の割合</td> <td>設定せず</td> <td>14%</td> </tr> <tr> <td>利用区域内の人工林率</td> <td>61%→設定せず</td> <td>65%</td> </tr> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td>設定せず</td> <td>71%</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価          基準値：伐採対象人工林の割合 36.5%以上          利用区域内の人工林率 69.9%以上          徒歩30分範囲内の人工林率 70.0%以上          林道を整備したことにより、伐採や森林整備など施業の効率化が図られた。</p> <p>②副次目標</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:30%;">指 標</th> <th style="width:30%;">着手時点数値等</th> <th style="width:40%;">評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>設定せず</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>③副次効果</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:80%;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>林業生産力の向上</td> <td>林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。</td> </tr> <tr> <td>防火帯の確保</td> <td>防火帯（防火線）として必要な幅であるおおむね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進</td> <td>以前は林内放置となっていた間伐材の有効利用がなされた。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④その他の事業効果の発現状況          柳沢峠から三窪高原へのアクセス道として、ハイカー等が利用している。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	伐採対象人工林の割合	設定せず	14%	利用区域内の人工林率	61%→設定せず	65%	徒歩30分範囲内の人工林率	設定せず	71%	指 標	着手時点数値等	評価時点数値	設定せず			項 目	内 容	林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。	防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅であるおおむね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。	リサイクルの推進	以前は林内放置となっていた間伐材の有効利用がなされた。	<p>(2) 費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 <span style="float: right;">〈 (有) ・ 無 〉</span></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width:20%;">項 目</th> <th style="width:30%;">着手時点の計画</th> <th style="width:50%;">事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,700 百万円</td> <td>1,980百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>S61~H17</td> <td>S61~H17</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>未算出</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>未算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析)          脆弱な地質と急峻な地形等により法面保護工、路側構造物の増工などにより、事業費が280百万増加した。</p> <p>(3) 事業実施による環境の変化 <span style="float: right;">〈 (有) ・ 無 〉</span></p> <p>①自然環境への影響          ・公益的機能の向上          間伐の実施により下草など植生の繁茂による保水能力の上昇、降雨による表土の流出が少なくなるなど公益的機能が向上している。また、森林整備を行うことで健全な森林となり、地球温暖化防止に貢献している。</p> <p>②生活・居住環境等への影響          なし。</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）          なし。</p> <p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 <span style="float: right;">〈 有 ・ (無) 〉</span></p> <p>①社会経済状況の変化          なし。</p> <p>②関連計画・関連事業の状況の変化          なし。</p> <p>③事業環境等の変化          なし。</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,700 百万円	1,980百万円	工 期	S61~H17	S61~H17	経済効率性	費用	未算出	便益	未算出	B/C	未算出
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																									
伐採対象人工林の割合	設定せず	14%																																									
利用区域内の人工林率	61%→設定せず	65%																																									
徒歩30分範囲内の人工林率	設定せず	71%																																									
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																									
設定せず																																											
項 目	内 容																																										
林業生産力の向上	林業生産場所と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。																																										
防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅であるおおむね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。																																										
リサイクルの推進	以前は林内放置となっていた間伐材の有効利用がなされた。																																										
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																									
総事業費	1,700 百万円	1,980百万円																																									
工 期	S61~H17	S61~H17																																									
経済効率性	費用	未算出																																									
	便益	未算出																																									
	B/C	未算出																																									

評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 <b>有</b> ・ 無 〉</span></p>
<p>(理由)                  本地域は、林道が開通し森林整備を計画的に実施できる体制が整い、利用区域の全域が県有林であるため、県有林管理計画に基づき森林整備が実施されており、間伐材の有効利用も図られている。                  また、今後の森林整備計画についても確実に実施される見込であるため、事後評価を再度実施する必要性はないと思われる。</p> <p><input type="checkbox"/>「有」の場合の実施時期及び方法                  ・ 時期：        年度                  ・ 方法：</p>	<p>(理由)                  部分的に地質が脆弱で地形が急峻であったため総事業費が増額となった。</p> <p>(具体的反映策)                  事前調査の精度向上に努めるとともに条件変更等が生じた場合、比較検討を行い、より経済的な工法を採用する。</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <b>無</b> 〉</span></p>
<p>(理由)                  なし。</p> <p>(具体的改善策)                  なし。</p> <p>(既の実施した改善策の内容と効果)                  なし。</p>	<p>(理由)                  なし。</p> <p>(具体的反映策)                  なし。</p> <p>(9) その他特筆すべき事項                  なし。</p>

3. 添付資料シート(1)



沿線の森林整備実施状況（枝打ち）



沿線の森林整備実施状況（利用間伐）

3. 添付資料シート(2)



完了区間の間伐材利用状況（木製土留工）



完了区間の間伐材利用状況（丸太柵工）